

子どもたちの 悩みを受け止めるために。

学校の役割は多様化しています。さまざまな悩みを抱えた子どもたちの相談に乗り、楽しく学校へ通えるように。3年間小学校で相談員を務めた梅田美千代さんに伺いました。



梅田美千代さん

この春まで、勝山市内の小学校で「親と子の相談員」を務める。現在は演劇を通して想像力や表現力を引き出す「ドラマ教育」を実践する「うめだ演劇工房」を主宰。県子どもNPOセンター理事。

—相談員とは、どのような役割なのでしょう？

学校の先生とは別の視点で子どもの話を聞ける大人。何でも気軽に話せて愚痴も言えることで気持ちの整理がつくことも多いし、こちらとしては問題の芽を小さなうちに摘むことができる可能性があります。保護者のお話を聞くのも大切な仕事です。「相談員」は総称で、市町によって呼び方は違います。

—相談員は違うのですか？

カウンセラーは専門の資格を持つ方ですが、相談員は子育てや地域活動の経験者など、もっと気軽な話し相手です。不登校の子どもたちは、

—スクールカウンセラーと相談員は違うのですか？

状況がわかつたら、相談員は保護者や教師と連絡を取りながら支援方法を探ります。ケースに応じてカウンセラーの力を借りて、協力して

—まずは何でも聞いてあげるんですね。

背後に家庭や学習面、人間関係など複雑な要因を抱えています。私たちはまず子どもに近い立場で時間をかけて、じっくり話を聞いていきます。

—きめ細かなケアをしていることが分かります。

スクールカウンセラーは、中学校が全校配置になつたと

さらに一方で、相談員の数は減つていて実態があります。社会が複雑になり、子どもの悩みは多様化しています。関わる立場、共有できる時間、市町への直接要望などにご協

—今後も子どもの心のケアに関わる方々の役割は、ますます重要になります。

悩みやストレスを抱える子どもたちは、長い目で見守つてあげることが大切です。相談員がコロコロ変わってしまふと、積み上げた信頼が途切れてしまします。

—スクールカウンセラーや相談員は、どちらも心のケアをするのが本職です。一方で、相談員は児童生徒の問題解決にあたります。例えば勤務は週1回程度、小学校の配置はまだ2割です。中学校が全校配置になつたと

県教組では、こうした子どもたちへの支援体制を整えようとして請願活動に取り組んでいますよね。地域や保護者の方々にも相談員やカウンセラーの役割を知っていたら、市町への直接要望などにご協力いただきたいと思います。

教師をサポートする子どもたちの相談役

スクール カウンセラー

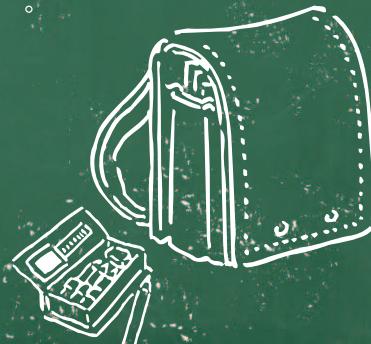
臨床心理士など専門的な知識や経験を有する。平成23年度は県内に56人が配置。中学校は全校の74校に配置(1人が複数校兼務)、小学校の配置は45校と約2割。

スクール ソーシャルワーカー

社会福祉士など、福祉や教育の専門的な知識を持つ。不登校の子どもの家庭に直接出向いたり、学校や福祉関係機関、地域との連携を強化しながら対応。平成23年度は12人で県内全域を担当。

相談員、支援員など

免許等は不要だが、教育や子育ての経験が豊富で地域活動に積極的な人が多い。学校の要望に応じて市町などから派遣され、子どもと近い目線で相談や学校生活の支援を行う。雇用の条件はさまざま。



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています。

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファックス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>